

おわりに

「同報系防災無線システムの低廉化に向けた調査検討会」では、自治体が、災害情報を確実に伝達するための手段として、戸別受信機を整備する場合に、その整備コストが課題となっていることを踏まえ、同報系防災行政無線システムのうち、戸別受信機に着目し、調査検討を行った。

検討に当たっては、現行のデジタル方式と新たなデジタル方式について、岡山県浅口市での実地試験を通して、

- (1) 現行デジタル方式と新たな方式(4値FSK等)との比較検証
- (2) 実地試験で取得した音声等録音素材による実聴試験結果検証
- (3) 新たな方式の効果と課題
- (4) 低廉化に向けた方策と戸別受信機普及への課題

について、検討を実施した。

その結果、実地試験、実聴試験結果をもとに、

- (1) 新たな方式は現行方式に比べ電力効率が良く、より広い受信エリアで所要の回線品質を満足。
- (2) 新たな方式は、音声による情報認識では戸別受信機として対応可能。

などととも、考慮すべき点も明らかになったことから、これらを踏まえつつ、外部アンテナの不要化等による低廉化の方策、戸別受信機導入への道筋、加えて、戸別受信機のさらなる普及に向けた課題を取りまとめた。

本調査検討で得られた結果が、今後、同報系防災無線システムを自治体が導入・検討する上で活用され、住民一人ひとりの命を守るための身近なツールとして、普及・拡大することを期待するものである。

最後に、本調査検討における審議にご尽力いただいた田野座長をはじめ、各委員並びに関係者の方々、そして実地試験でご協力いただいた浅口市、実地試験の関係者の方々に、厚く感謝いたします。

平成26年3月

「同報系防災無線システムの低廉化に向けた調査検討会」

事務局